

決算説明会

－ 2025年12月期 －

2026年2月18日

株式会社ファンペップ

証券コード：4881



<http://www.funpep.co.jp>

- 本資料に記載された将来の業績に関する記述は、将来情報です。将来情報には、「信じる」、「予期する」、「計画する」、「戦略をもつ」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性がある」というような表現および将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます（これらに限定されるものではありません）。将来情報は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来情報は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来情報に明示または黙示されたものとは大幅に異なる場合があります。したがって、将来情報に全面的に依拠することのないようご注意ください。
- 本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の真実性、正確性や完全性に依拠し、前提としています。当社はかかる情報のうち、当社以外の第三者の公開情報等の真実性、正確性あるいは完全性について独自の検証を行っておらず、その真実性、正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。
- 本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

1. 事業概要
2. 抗体誘導ペプチドによる治療ワクチン
－ アレルギーワクチン FPP004X
3. 皮膚潰瘍治療薬 SR-0379
4. 研究テーマ
5. 決算概要
6. 2026年12月期の見通し

事業概要



<http://www.funpep.co.jp>

1 【2025年10月】
FPP004Xの第Ⅰ相試験で被験者への治験薬投与が完了

2 【2025年5月】
FPP004Xに関する物質特許成立（日本）

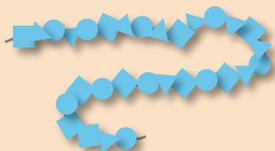
3 【2025年12月】
SR-0379の追加第Ⅲ相試験で目標症例数の半数の登録が完了

4 【2025年4月】
特殊ペプチド創薬研究開始

5 【2025年10月】
FPP003のオプション契約終了

ヒト由来抗菌ペプチドAG30を起源とし、
ペプチド加工ノウハウを強みに研究開発パイプラインを構築

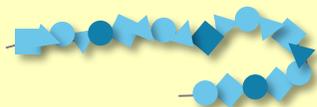
機能性ペプチド「AG30」



<機能>
・血管新生作用
・抗菌活性

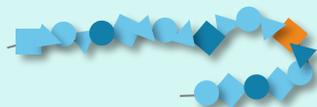
かいよう
皮膚潰瘍治療薬
第III相試験実施中（日本）

機能性ペプチド「SR-0379」



皮膚潰瘍・褥瘡の治療薬として開発中

機能性ペプチド「AJP001」



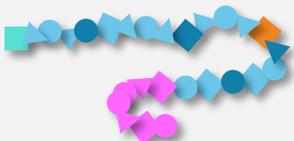
身体の中で病気を治療する抗体を作る
抗体誘導ペプチドとして研究開発に注力

機能性ペプチド
(抗菌ペプチド)



かんせん
乾癬治療薬

抗IL-17A抗体誘導ペプチド
「FPP003」



花粉症治療薬
第I相試験実施中（日本）

抗IgE抗体誘導ペプチド
「FPP004X」



抗IL-23抗体誘導ペプチド
「FPP005」



機能性ショートペプチド
「OSK9/AAP」



< 開発品 >

| | 開発品 | 対象疾患 | 事業化 想定地域 | 臨床試験 実施地域 | 探索 研究 | 前臨床 | 臨床試験 | | | 導出先等 |
|--------------|------------------------|----------------------------|-------------|--------------|----------|-----|------------|-----|-----|----------------------------|
| | | | | | | | 第Ⅰ相 | 第Ⅱ相 | 第Ⅲ相 | |
| 機能性 ペプチド | SR-0379 | 皮膚潰瘍 (ひふかいよう) | 全世界 | 日本 | | | 第Ⅲ相 (02試験) | | | 塩野義製薬 (株) (全世界のライセンス契約) |
| 抗体誘導 ペプチド | FPP003 (標的: IL-17A) | 乾癬 (かんせん) | 全世界 | 豪州 | | | 第Ⅰ/Ⅱa相 | | | 未定 |
| | | 強直性脊椎炎 (きょうちよくせいせきついえん) | 全世界 | 日本 | | | 第Ⅱa相 | | | |
| | FPP004X (標的: IgE) | 花粉症 (季節性アレルギー性鼻炎) | 全世界 | 日本 | | | 第Ⅰ相 | | | 塩野義製薬 (株) (全世界のオプション契約) |
| | FPP005 (標的: IL-23) | 乾癬 (かんせん) | 全世界 | — | | | 前臨床 | | | 未定 |

抗体誘導ペプチドによる治療ワクチン



<http://www.funpep.co.jp>

感染症ワクチン

ウイルスや細菌に対する抗体などを作り出し、病気を予防する

体にとって異物なので免疫が反応して抗体が作られる

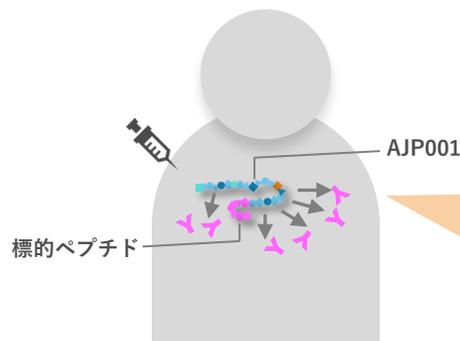


ワクチンには、ウイルス（全体や一部）等を用いる



当社の抗体誘導ペプチド

ファンペップ独自の抗体誘導ペプチドにより、体の中の疾患関連タンパク質に対する抗体を作り出し、疾患を治療する



疾患関連たんぱく質（一部）と、免疫力を向上させる物質「AJP001」ペプチドを使用

当社の持つ抗体誘導ペプチド技術を生かすことで、感染症ワクチンのように効果が持続する慢性疾患向けワクチンを開発する。

長期持続型治療ワクチン

抗体誘導ペプチドの特徴を生かした各所への貢献

効果の持続性

ペプチドとワクチンのそれぞれの特徴を生かして、1回の投与による薬の効果が長くなる。すると、投与回数が少なくなる。さらに2回目以降も薬の効果が落ちにくい。結果、長期にわたって使い続けることができる。

コストの軽減

標的タンパク質が分かっているので、開発コストを軽減できる。また、簡便な製造方法（化学合成）により、製造コストも抑制できる。

医者・患者さん

アドヒアランス不良の改善で、飲み忘れ等の心配がなく、治療効果が向上する。投薬・通院頻度減少により患者さんへの負担軽減・利便性が向上する。

2回目以降の薬の効果が落ちにくいいため、持病で生涯にわたって薬の服用が必要な人でも、使い続けることができる。

製薬企業

薬剤費抑制等により医療費軽減へ貢献する。また、収益性を損なうことなく、患者さんに安く薬剤を提供できる。

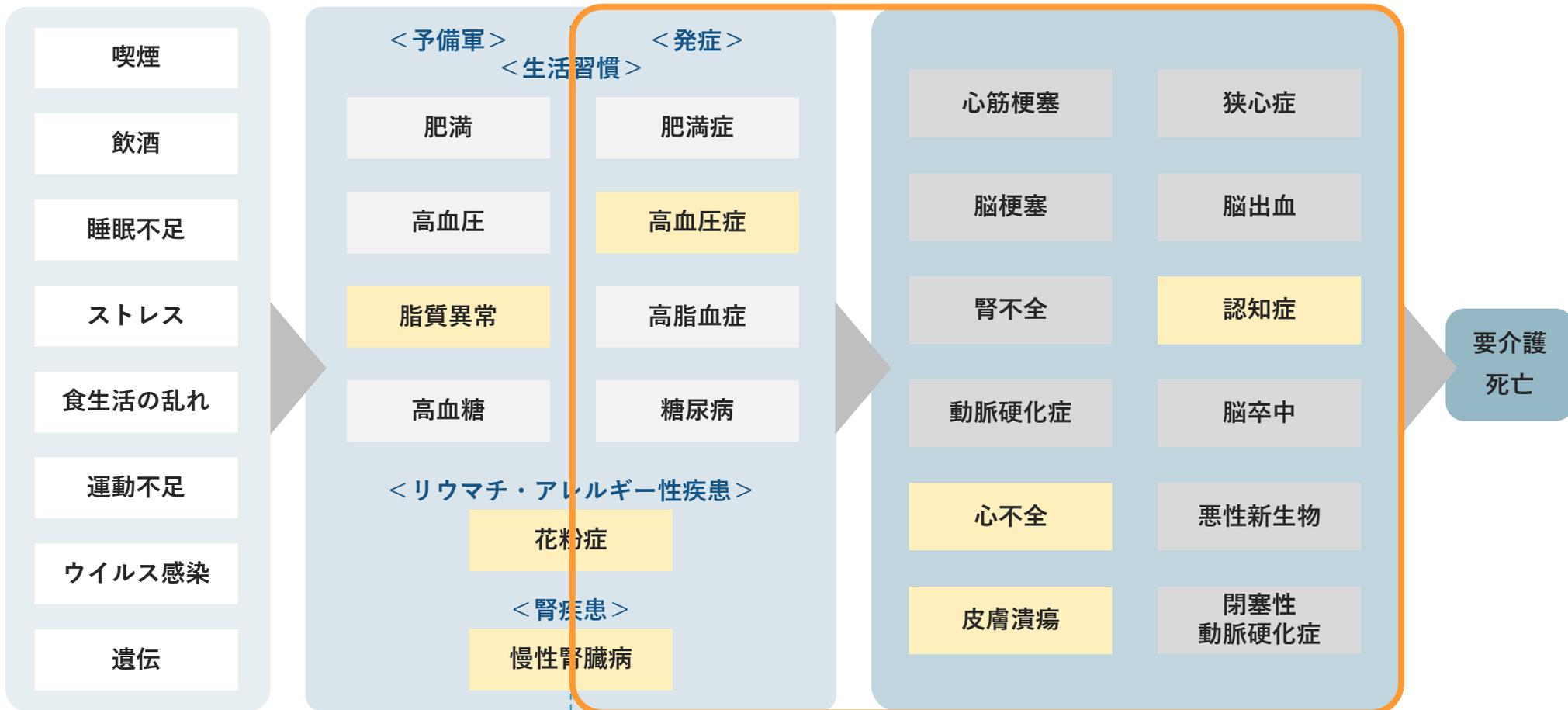
現在、抗体医薬の代替として、発症後の疾患に対するワクチンを開発している

《慢性疾患一覧》

<発症前/原因>

<症状発症>

<重症化・合併症>



アレルギーワクチン FPP004X

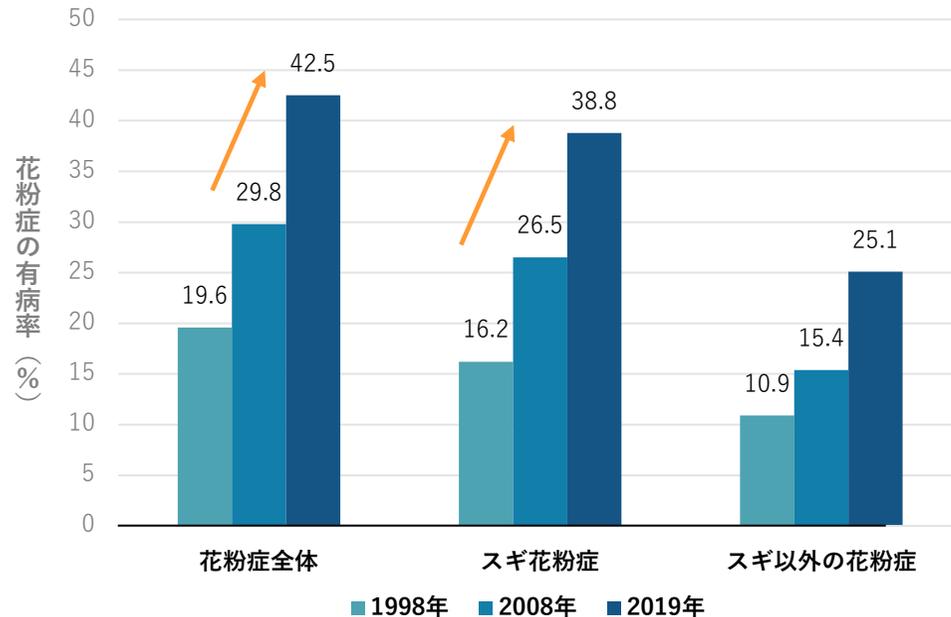


<http://www.funpep.co.jp>

Copyright © FunPep All Rights Reserved.

花粉症は、有病率が10年間で10%以上増加している国民病 さらに有病率の増加が危惧されている

鼻アレルギーの全国疫学調査



花粉症の有病率は、
2019年時点では、花粉症全体で42.5%、
スギ花粉症で38.8%と、10年間で10%以上増加
している。

いずれも、1998年(20年前)の倍以上の
有病率になっている。

(出所) 松原 篤他. 鼻アレルギーの全国疫学調査 2019(1998年, 2008年との比較): 速報
-耳鼻咽喉科医およびその家族を対象として-. 日耳鼻 2020;123:485-490.

有病率の高さと症状の激しさから、毎春社会問題としてメディアに取り上げられています。
自然寛解が少ない疾患であることやスギ花粉症の低年齢化などから、
さらに有病率の増加が危惧されています。

毎日服用する煩わしさがなく、花粉症シーズン前に1回ワクチン投与すれば、シーズンを通じて効果が持続する

現在の治療薬はスギ花粉症の場合、例年2月上旬ごろから5月初旬まで約3ヵ月毎日服用

〈花粉シーズン中 毎日1回の服用〉

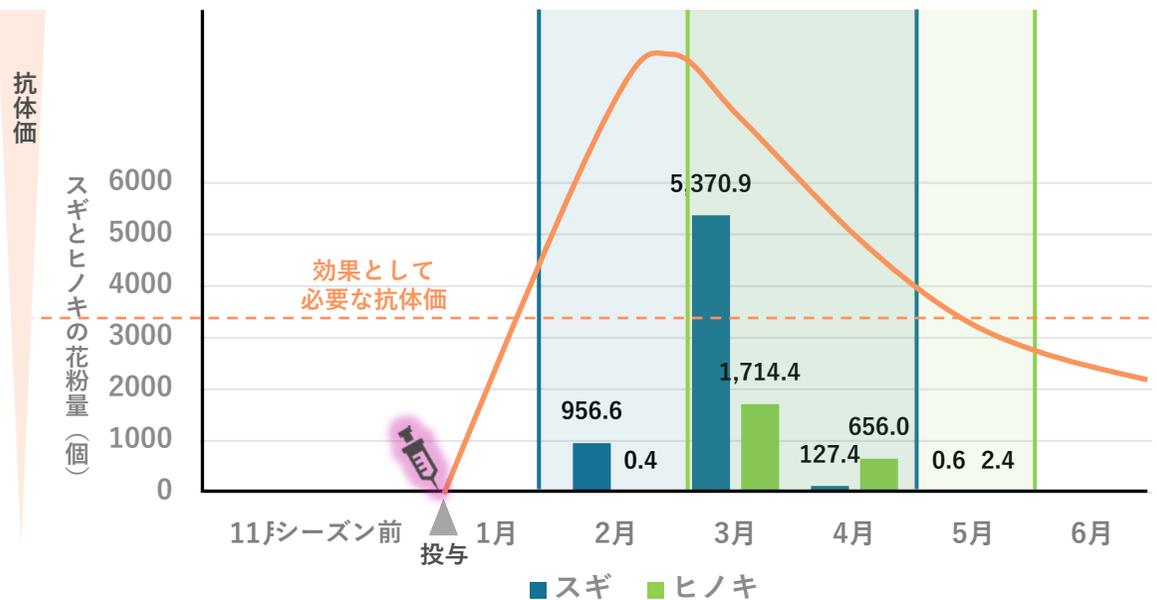


〈花粉シーズン中 毎日2回の服用〉



既存薬よりも良くなるPoint

花粉症のシーズン前に投与することで、体内で抗体を持続的に作ることができ、シーズンを通じて、花粉症の症状を緩和できる



NPO法人花粉情報協会のデータをもとに自社作成
 ※ 全国24地点の平均花粉量 (月合計)
 単位面積 (1平方cm) あたりに落下する花粉数を計測

← スギ花粉 (2月-4月) →
 ← ヒノキ花粉 (3月-5月) →

FPP004Xは、大阪大学大学院医学系研究科との共同研究のもとで当社が創製した開発化合物で、**IgE (Immunoglobulin E) を標的タンパク質とする抗体誘導ペプチド**です。
花粉症 (季節性アレルギー性鼻炎) を対象疾患として臨床試験を実施中です。

株式会社ファンペップ



体内で特定の抗体を作らせる「抗体誘導ペプチド」という独自技術を持つ大阪大学発のスタートアップ。



塩野義製薬株式会社



「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」を経営理念に掲げる。



FPP004Xの全世界における
独占研究開発・商業化権を取得する
オプション権

一時金+出資

オプション権行使 (ライセンス付与)

一時金

開発マイルストーン

ロイヤリティ

販売マイルストーン

- 2025年3月に試験を開始し、2025年10月に治療薬投与が完了
今後、2026年下期に試験結果が判明予定

< 第 I 相臨床試験の概要 >

| | 対象者 | | 用法・用量 |
|-------|----------------------------|-------|-----------------------------------|
| パート 1 | 健常成人 | コホート1 | FPP004X（低用量）又は プラセボを4週間間隔で2回投与 |
| | | コホート2 | FPP004X（高用量）又は プラセボを4週間間隔で2回投与 |
| | | コホート3 | FPP004X（高用量）又は プラセボを4週間間隔で3回投与 |
| パート 2 | 季節性アレルギー性鼻炎 (スギ花粉症)の患者様 | コホート4 | FPP004X（高用量）又は プラセボを4週間間隔で3回投与 |

皮膚潰瘍治療薬 SR-0379



<http://www.funpep.co.jp>

Copyright © FunPep All Rights Reserved.

対象となる疾患

皮膚潰瘍は主に3種類あります。それぞれ傷ができる原因は違いますが、治っていく過程は変わらないので同じ薬を使って治療をします。

皮膚潰瘍

褥瘡

圧迫による血行障害

寝たきりや車いす生活などによって、体重で圧迫されている皮膚の血流が悪くなったり滞ることで、皮膚の一部が赤い色味をおびたり、ただれたり、傷ができてしまいます。

糖尿病性潰瘍

糖尿病による神経障害

足に頻発する糖尿病の合併症として代表的なもの。皮膚の炎症を放置しておくとな菌による炎症が皮膚の内部まで進み、出血や膿などを伴い壊死して潰瘍になってしまう。

下腿潰瘍

静脈血栓によるうっ滞

下肢静脈瘤など足の血管の異常が原因で血液がうっ滞し、くるぶしのまわりなどの皮膚が炎症を起こして潰瘍ができた状態。最初は皮膚が赤くなり、数週間から数ヶ月単位で暗褐色に変色していき、進行すると皮膚が破れて潰瘍ができます。

褥瘡(じょくそう)とはどのような病気なのか？

褥瘡（じょくそう）とは、
寝たきりや車いす生活などによって、
体重で圧迫されている皮膚の血流が悪くなったり滞ることで、
皮膚の一部が赤い色味をおびたり、ただれたり、傷ができてしまうことです。
一般的に「床ずれ」とも言われています。

褥瘡は圧迫を受けやすいお尻や腰骨周囲、踵（かかと）、肘などに生じることが多く、
皮膚の赤みやただれ、ひどくなると潰瘍（かいよう）や細菌感染を生じる場合もあります。



褥瘡によるさまざまな負担

褥瘡になると、患者さま本人だけでなく介護者にも負担がかかります。
介護量の増加で精神的なストレスにつながったり、
さらに治療代や入院費用など、経済的負担にもなる可能性があります。

本人の負担

継続する痛み

痛みがずっと続いたり、
傷口から菌が繁殖すると
感染症のリスクも高まります。



介護者の負担

傷口の管理

薬の塗布、傷口の洗浄、
定期的な体位変換、
栄養補給など



経済的負担

治療費用

薬や治療資材の治療用品代や
重症の場合は入院費もかかります。
さらに、病状が長引くと
その費用も増えていきます。



一日でも早い回復が必要

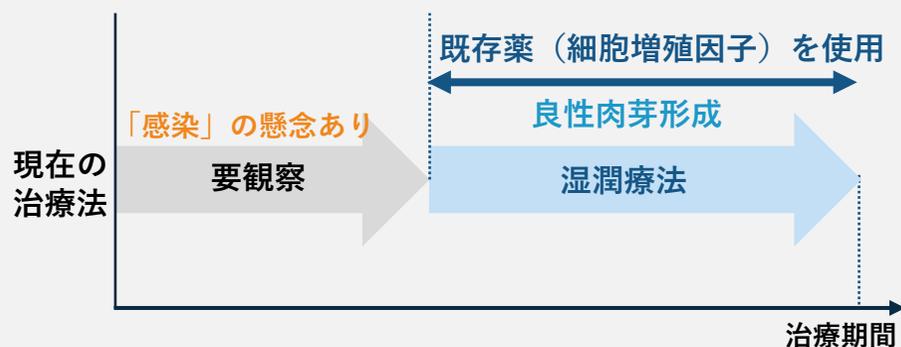
皮膚潰瘍治療薬「SR-0379」は、既存の治療薬よりも使いやすく治療期間も短い

現在は、冷蔵保存が必要な
スプレー剤が使用されている

冷蔵保存



現在の治療法では、
「感染」の懸念がある場合には、
要観察となる



既存薬よりも使いやすくなるPoint

Point 1

室温保存が可能



ベッドサイドに置くことができるようになる

Point 2

抗菌作用があるので、
今よりも治療期間が短縮できる

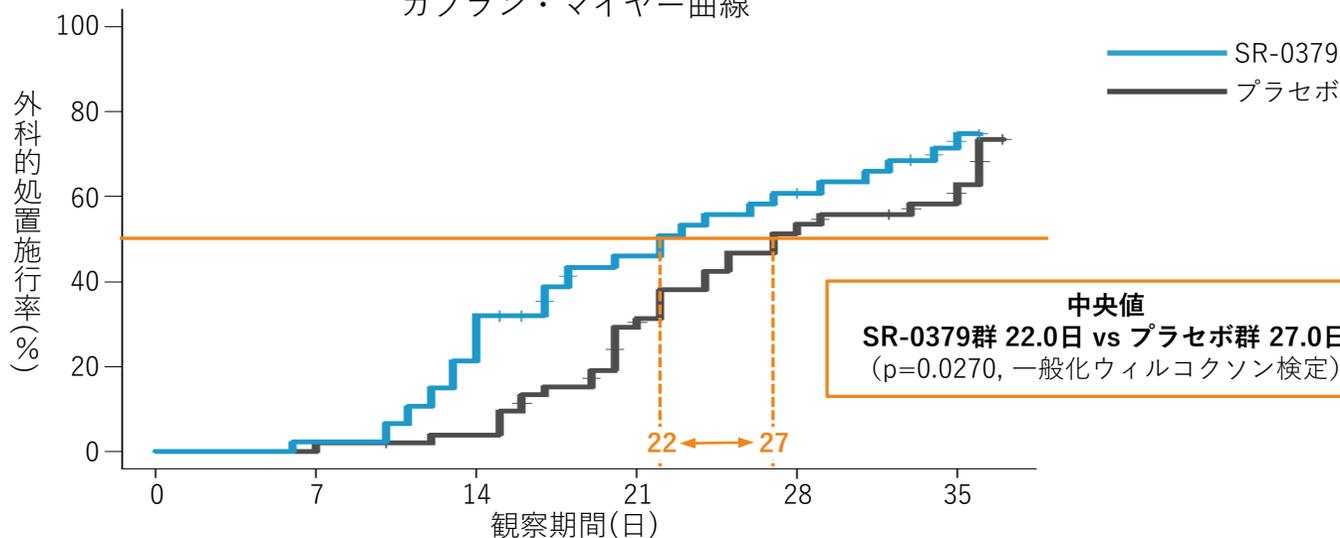


前回の第Ⅲ相臨床試験（01試験）の事後部分集団解析により 特定の皮膚潰瘍患者に対する有効性が確認されました

<前回の第Ⅲ相臨床試験結果（01試験）>

事後部分集団解析
潰瘍サイズ（長径×短径）36cm²未満（N=101）

Kaplan-Meier 曲線



| | | | | | | |
|---------|----|----|----|----|----|----|
| | 0 | 7 | 14 | 21 | 28 | 35 |
| SR-0379 | 47 | 46 | 37 | 22 | 16 | 9 |
| プラセボ | 54 | 54 | 51 | 34 | 22 | 9 |

**主要評価項目「外科的処置に至るまでの日数」について
SR-0379群は、プラセボ群に対して約5日間短縮しました**

研究テーマ



<http://www.funpep.co.jp>

外部企業及びアカデミアとの連携により
当社の創薬基盤技術「STEP UP」に基づく創薬活動を強化している

ターゲットの疾患

標的タンパク質に対する
候補化合物を共同で選定する



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO



熊本大学
Kumamoto University

創薬基盤技術
STEP UP
大阪大学と連携



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

AI

効率よく候補化合物を選定する



Xeureka

医薬品開発

前臨床/臨床試験から
製薬会社と提携して進める



SHIONOGI

製剤技術

候補化合物の効果をさらに増強する

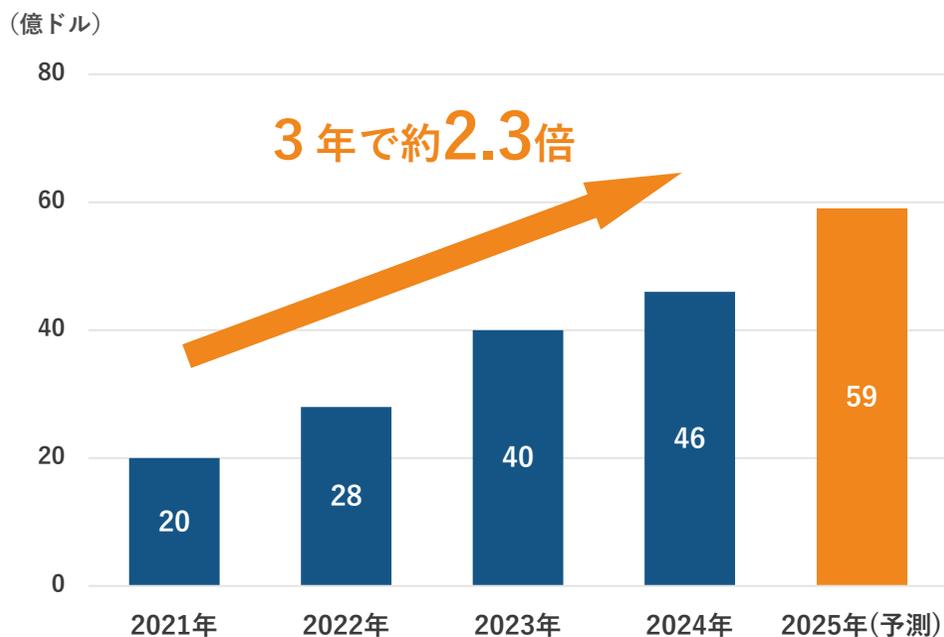


SHIONOGI

特殊ペプチド創薬研究の開始

富士フィルム和光純薬株式会社と研究委託契約を締結し、
病気の原因となる特定の標的分子に強く結合する特殊ペプチドを探す研究を開始しました。

経口ペプチド医薬の市場規模推移



(出所) TPCマーケティングリサーチ
「2025年 世界のペプチド医薬品市場・開発動向」 (2025年7月)

主な経口ペプチド医薬

【製品】

| 一般名 | 適応症 | 標的分子 | 売上高 (百万ドル) |
|-------------|-------|-------|---------------|
| semaglutide | 2型糖尿病 | GLP-1 | 3,397 (2024) |

【研究開発】

| 一般名 | 適応症 | 標的分子 | 開発段階 |
|-------------------------|----------------|--------|-------|
| enlicitide decanoate | 高コレステ ロール血症 | PCSK9 | 第III相 |
| icotrokinra | 乾癬 | IL-23R | 承認申請中 |

決算概要



<http://www.funpep.co.jp>

研究開発費は、SR-0379およびFPP004Xの臨床試験により増加

< 連結損益計算書の概要 >

(百万円)

| | 24/12期 実績 | 25/12期 実績 | 増減額 | 主な要因 |
|---------------------|--------------|--------------|--------|---------------------------|
| 事業収益 | 6 | 0 | △5 | |
| 事業費用 | 907 | 1,648 | +741 | |
| 研究開発費 | 540 | 1,296 | +755 | SR-0379、FPP004X臨床試験費用の増加 |
| 販売費及び一般管理費 | 366 | 352 | △13 | |
| 営業利益 | △901 | △1,648 | △746 | |
| 経常利益 | △896 | △1,633 | △737 | |
| 特別損失 | — | 377 | +377 | 連結子会社に関するのれん、契約関連無形資産等の減損 |
| 親会社株主に帰属する 当期純損失 | △889 | △1,911 | △1,022 | |

< 連結貸借対照表の概要 >

(百万円)

| | 24/12末 実績 | 25/12末 実績 | 増減額 | 主な要因 |
|----------|--------------|---------------|--------|---------------------|
| 流動資産 | 2,646 | 1,934 | △711 | |
| 現金及び預金 | 2,346 | 1,768 | △577 | |
| 固定資産 | 464 | 45 | △418 | |
| のれん | 105 | 0 | △105 | 連結子会社に関するのれん減損 |
| 契約関連無形資産 | 313 | 8 | △304 | 連結子会社に関する契約関連無形資産減損 |
| 資産合計 | 3,110 | 1,980 | △1,129 | |
| 流動負債 | 460 | 516 | +56 | |
| 固定負債 | 103 | 0 | △103 | |
| 繰延税金負債 | 103 | 0 | △103 | 減損に伴う繰延税金負債の取崩し |
| 負債合計 | 563 | 516 | △46 | |
| 資本金 | 3,308 | 3,716 | +407 | 新株予約権行使 |
| 資本剰余金 | 1,073 | 1,480 | +407 | |
| 利益剰余金 | △1,844 | △3,755 | △1,911 | 当期純損失の計上 |
| 純資産合計 | 2,547 | 1,464 | △1,083 | |
| 負債純資産合計 | 3,110 | 1,980 | △1,129 | |

<連結キャッシュ・フロー計算書の概要>

(百万円)

| | 25/12 実績 | 主な要因 |
|------------------|-------------|-------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △1,387 | 税引前当期純損失の計上 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △0 | |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 810 | 新株予約権行使 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | △577 | |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 2,346 | |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,768 | |

2026年12月期の見通し



<http://www.funpep.co.jp>

研究開発は、FPP004X及びSR-0379の臨床試験を優先的に進めていく

| 開発品 | 対象疾患 | 臨床試験実施地域 | 2025年 | 2026年 | | | |
|---------------------------------|----------------------|----------|--------------------------------|------------------|---------------------|----|----|
| | | | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
| <抗体誘導ペプチドプロジェクト> | | | | | | | |
| FPP004X (標的: IgE) | 花粉症 (季節性アレルギー性鼻炎) | 日本 | ★ | 第I相臨床試験 | | | ★ |
| | | | 2025年4Q 被験者への 治験薬の投与完了 | | 2026年下期 試験結果判明予定 | | |
| FPP003 (標的: IL-17A) | 乾癬・強直性脊椎炎 | — | 開発パートナー確保を目指し、 アライアンス活動中 | | | | |
| 新規開発化合物 | 未定 | — | 新規開発化合物 の探索研究 | | | | |
| <皮膚潰瘍治療薬「SR-0379」> | | | | | | | |
| SR-0379 | 皮膚潰瘍 (ひふかいよう) | 日本 | ★ | 第III相臨床試験 (02試験) | | | ★ |
| | | | 2025年12月 目標症例数の半数の 登録が完了 | | 2027年上期 試験結果判明予定 | | |

・事業展開

- ✓ 研究開発面では、花粉症を対象疾患として開発中の抗体誘導ペプチド「FPP004X」および皮膚潰瘍を対象疾患として開発中の機能性ペプチド「SR-0379」の臨床試験に注力します。さらに、新規パイプラインの創出に向けた探索研究に取り組みます。
- ✓ 事業開発面では、製薬会社とのライセンス契約や共同研究契約等の締結に向けたアライアンス活動も進めていきます。

・財務情報（連結ベース）

- ✓ 研究開発費は、FPP004XおよびSR-0379の臨床試験費用、新規開発化合物の探索研究費用等により、800百万円を見込んでいます。
- ✓ その他の販売費及び一般管理費は、300百万円の見込んでいます。
- ✓ 事業収益は、製薬会社からの提携収入等が発生する可能性があります。

2026年12月期の業績予想につきましては、当社グループの事業収益が研究開発の進捗状況や新規提携候補先との交渉状況に依存しており、その不確実要因を考慮すると現時点では合理的に算定することが困難なため、記載しておりません。投資判断に有用な情報として、上記の予測情報を開示しています

ご清聴ありがとうございました



<http://www.funpep.co.jp>

Copyright © FunPep All Rights Reserved.